



川西幼稚園だより

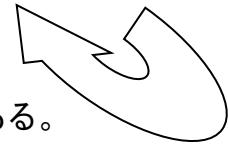
大人になったあなたを支えるのは、子ども時代のあなたです

令和8年6月

富田林市立川西幼稚園

園長

石田 安志



川の水は、岸に沿って流れているのではない。

川の水に沿って岸ができていのである。

6月は雨の多い季節。山に雨が降るとその水は、小川から川に集まり最後には大きな流れとなって海へと向かう。

この川の水は「感情」です。そして、内発的動機付けの一番強い力は「感情」です。

「培其根」（ばいきこん）東井義雄著（昭和41年初版）の中に中学3年生女子の詩が綴られており「川は岸に沿って流れているのではない。川に沿って岸ができていのである。」とある。

教師や親の悪い癖かもしれないが、大人の作った岸に流れを捻じ曲げようとする。しかし、流れにはそれをそのように流れずにおれない「流れの論理」を持っていて、捻じ曲げようすると激しく抵抗する。流れが強ければ強いほど抵抗も大きく、大人が作った岸などは押し流されてしまう。だからと言って、大海をめざすべき水の志を迷走させたり、大人の論理で堰き止めたりして洪水させるわけにはいかない。私たちはどう対処すべきなのか？

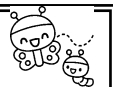
先ず、川の流れをよく見て、流れの論理を見極める。そして流れの論理に沿って岸を造っていく。ただ、それだけではこちらも流されているに過ぎないので、子どもに寄り添うように一緒に水に入り流されながらも子どもとの対話によって指導の岸を造っていく。岸の向こうにはいつも広く豊かな海が光って見えている。そしていつの間にか大人も子どもも輝く海の住人になっているはず。

社会には、常識もルールもあるし、人に迷惑をかけることは許されない。待ってと言われても待てないときもあるし、買ってと言われても買うことが本人のためにならないときもある。ゲームをやめなさいと言っても区切りがつかないこともある。そんな時、子どもの成長を願うものとしてこう穏やかに伝えてください。「あなたの言いたいこと、やりたいことは理解（understand）できるよ。でも、今は同意（agree）できないね。」と...

東井氏は「根を養えば、樹はおのずから育つ」と説き、教育の成果を可視化することに固執する教育界の問題点を予見していました。AIの発達により、大きく人間の働き方は変わりますが、非認知能力（目には見えない根っこ）の価値はどんどん大きく見直されています。川西幼稚園がめざしているのは、小学校で困らないように言葉や数字を教えるのではなく、メンタルを整え、感情をコントロールして、生涯にわたり大地から栄養を吸い上げられる太い根を育てることです。

～育てたいこと～

- ☆3 歳児・・・教師や友達と関わりながら好きな遊びを存分に楽しむ。
- ☆4 歳児・・・いろいろな遊びに興味をもち、友達と一緒に遊ぶ心地良さを味わう。
- ☆5 歳児・・・友達との関わりを深め、自分の思いを伝えたり自分なりに考えたりしながら遊ぶ楽しさを味わう。



6月生まれのお友達
おたんじょうびおめでとう

今月のお誕生日の
お友達はいません。